

文翔館 周辺 ウォーカブルシンポジウム ～居心地が良く歩きたくなるみちへ～

シンポジウムについて

山形県では、文翔館周辺エリアをウォーカブルな空間にしていくため、「文翔館周辺エリアウォーカブル基本構想」の策定を予定しています。今よりちょっと進んだ未来のまちを、皆さんも一緒に見てみませんか？

ウォーカブルなまちづくりについて

道路空間を車中心から“人中心”の空間になるように、沿道と路上を一体的に活用して、人々が集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる場へとしていく取り組みです！

開催日時 | 令和7年7月13日(日) 10:30～12:30 (開場10:00)

定員 | 300 名程度 参加無料

開催場所 | 山形県生涯学習センター 遊学館 2階ホール
※シンポジウムの会場は文翔館ではありません



※ 駐車場料金は最大2時間まで無料、それ以降は30分ごとに100円
※ 2時間無料を受けるための条件は、以下の通りです。

<遊学館駐車場をご利用の場合>

入館時または退館時に、「遊学館1階総合案内」に駐車券をご提示ください。

<県営駐車場をご利用の場合>

入館時と退館時の2回、「遊学館1階総合案内」に駐車券をご提示ください。

参加申込はコチラ！



※ 定員に達した場合、
応募を締め切らせていただくことがあります。
※ 2次元コードが読み込めない場合は、下記にご連絡ください。
<メールアドレス> yamagata-nigiwai@n-koei.co.jp

昨年度の住民ワークショップで、班ごとに文翔館周辺エリアの整備案(4案)を作成しました。

会場内の「VR体験ブース」では、その4つの案をVRゴーグルを使って体験できます！

VR(Virtual Reality)とは...

コンピューターで作成された仮想的な空間を現実世界であるかのように疑似体験できる仕組み



※当日ご覧いただけるVRは、完成形を示すものではありません。

当日のプログラム

10:30～

開会挨拶

10:35～

ウォーカブルシティの現状と今後の可能性 : 泉山 壘威 先生

11:15～

住民が動かす「山形のまちづくり」 : 加藤 優一 先生

11:35～

パネルディスカッション

テーマ：よりよいウォーカブル空間を目指して！

12:25～

閉会挨拶

登壇者



<講演者・パネリスト>

泉山 壘威 先生

日本大学理工学部建築学科准教授、(一社)ソトノバ共同代表理事、(一社)エリアマネジメント・ラボ共同代表理事、PlacemakingX日本リーダー。

1984年北海道出身。「豊かなプレイスがエリアと都市の未来をつくる」をモットーに、理論と実践を融合させたアプローチで、持続可能な都市再生に挑戦し続ける。専門は都市経営、エリアマネジメント、パブリックスペース、タクティカル・アーバニズム、プレイスメイキング、ウォーカブルシティなど。主な受賞に「グッドデザイン賞2021：路上駐車スペース活用の普及啓発活動【Park(ing)Day Japan】」、主な著書に『パブリックスペース活用事典』『タクティカル・アーバニズム』など。



<講演者・パネリスト>

加藤 優一 先生

東北芸術工科大学専任講師、(株)銭湯ぐらし代表取締役、(一社)最上のくらし舎代表理事、(一社)空き家相談・活用支援協議会アドバイザー。

1987年山形県出身。デザイン&マネジメントをテーマに、建築の企画・設計・運営・研究に携わる。銭湯と連携したシェアスペースの経営や、山形での空き家活用プロジェクトなど、実践的な取り組みを展開中。

主な設計に「佐賀城内エリアリノベーション」「旧富士小学校の再生」、主な著書に『テンポラリーアーキテクチャー』『銭湯から広げるまちづくり』など。



<パネリスト>

牧野 秀紀 氏

山形エリアマネジメント協議会 事務局(マネージャー)、一般社団法人レラティヴ 事務局。

1995年静岡県出身。デザインの力を使って、コミュニティが持つ課題解決力を高めるよう支援するコミュニティデザインの手法で、住民参加型の計画策定(静岡県「次代を担う若者たちによる県民会議」、第3次高島町環境基本計画)や、市民活動支援(いいで未来カフェ、天元台・白布温泉エリアリノベーションプロジェクト、高知県佐川町「朝ドラに牧野富太郎を」の会)、学び・人材育成(一般社団法人レラティヴ、東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科 副手)などに携わる。

現在は「山形市中心市街地グランドデザイン」の具現化を推進するまちづくり組織「山形エリアマネジメント協議会」に従事。

<モデレーター>

佐藤 慎也 先生

山形大学工学部建築・デザイン学科教授。

1965年岩手県出身。「地域を繋ぐ住環境デザイン」をテーマに、子ども環境、都市計画・建築計画、都市住宅学の観点から実践的な取り組み・研究を実施。

次世代の住環境づくりに向けて、地域の子育て世代とともに、災害復興住宅・子育て支援施設・冒険遊び場の連携などに取り組む。

また、子どもと築く復興まちづくりとして、子どもたちが3次元の模型を通して表現したアイデアを街区公園デザインや学校づくりに活かすなど、子どものまちづくりへの参画にも取り組む。

